

バイオグラフィークとは

誕生

私はどこから来て、どこへ行くのでしょうか？
そして、この人生で何をしようのでしょうか？

バイオグラフィークは、誰もか心の深みに抱くこの問いに導かれて、自らの人生の軌跡（バイオグラフィーク）の中に生きる意味を探求する、自己教育のプロジェクトです。

バイオグラフィークでは、クレヨンや水彩、粘土、また動きや物語など芸術表現の力をかりて個々の人生の経験を深めるプロジェクトをたどりま。さらにグループとのダイアログを支えられ、それぞれの経験の本質へ近づいてゆきます。

新しい意識の共同体のために

63歳

バイオグラフィークの豊かな自己発見の旅をグループとともに辿るとき、一人では見えなかった自分自身の魂の願いやライフテークが少しずつ見えてくることは気づくでしょう。他者との交流の中で、人は真に自分自身を発見し成長することのできるのです。

自己と他者への深い理解から生まれる確かな関係性に根差す新しい意識の共同体づくりに、バイオグラフィークの学びが大きな力になることでしょう。

63歳からの人生：笑いをギフトに
人生の果実（学び）をギフトとして次世代へ手渡してゆく豊かな年月は、次の生への準備の時です。

霊的成長へむかう：42歳～63歳
人生の経験を理解し、学びへと変容させるインナーワークを通して、私たちは霊的成長の道を歩き始めます。

身体曲線

魂の成長期：21歳～42歳

この時期、人は世界（社会・人々）との交流を通して魂の質を育ててゆきます。

自我曲線

成長のアーキタイプ

バイオグラフィークをその人独自のものに形作るのは、一人ひとりの生きた経験です。ある時は軽やかに、ある時期は手探りで歩いてきた私たちの人生の軌跡。その多様な経験を、バイオグラフィークでは「シュタイナー教育や医学の根拠をなす「七年周期の成長のアーキタイプ」を入り口にして読み解いてゆきます。
(図は人間の成長のアーキタイプの概略)

人間の普遍性を示すアーキタイプと、私達の個人的な経験を照らし合わせるとき、私という一個人の独自性が見えてきます。それぞれの人生の意味が感じられる一瞬です。



「おひさまの心」粘土



「おばあちゃんの畑」バステル



「紡ぐ」粘土

バイオグラフィー・ワーク・ジャパン

教育プログラム

バイオグラフィー・ワーク・養成コース

アントロポロジー（人智学）の人間観と世界観に基づくソシオリアルト、バイオグラフィー・ワークは、2000年秋、近見富美子（現バイオグラフィー・ワーク・ジャパン代表）によって日本に紹介されました。翌年のクリスマスには、バイオグラフィー・ワーク養成コース第1期がスタートして以来、現在まで多様な背景を持つ参加者が養成コースで学んでいます。

養成コースは、それぞれ2年半のモジュラー・フォーマットからなる基礎と上級課程に分かれ、バイオグラフィー・ワークに必要な資質や知識を、実践を通して習得します。個人でのワークとグループとの協働作業がバイオグラフィー・ワークの学びを深めていきます。



養成コースの一場面

これまで、東京、伊豆高原、名古屋、京都および福岡で養成コースが開催されています。養成コースの受講、および各地のバイオグラフィー・ワークによるワークショップ開催のお問い合わせは下記へ。

一般社団法人バイオグラフィー・ワーク・ジャパン

<https://biographywork.jp>

info@biographywork.jp

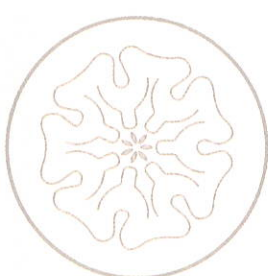
自分を知りたければ
世界をよく見てごらん
世界を知りたければ

自分自身の内奥へ目を向けることだ

ルドルフ・シュタイナー



バイオグラフィー・ワークは、アントロポロジーのインターナショナルセンター、ゲーテアム（スイス、トルナツツ）のSchool of Spiritual Science, General Sectionに属し、本コースは同機関の認定を受けています。



Biographywork Japan

バイオグラフィー・ワーク

新しい意識の共同体のために

一般社団法人

バイオグラフィー・ワーク・ジャパン

<https://biographywork.jp>